

その 輝

似合ってますね

開成水泳部PRESENTS

水泳部誌
文化祭特別ver.

はじめに

本日は水泳部参団をご見学いただき、ありがとうございます。例年我が参団は日本泳法に関する展示がメインでしたが、今年は趣向を変えて体力測定を行い、展示していた内容をこの冊子にまとめました。冊子は全て自作ですので至らぬ点多々あるかと思いますが、目にする機会の少ない日本泳法に少しでも触れていただければ幸いです。

About this club

開成水泳部の歩み

開成水泳部は明治31年に発足しました。当時の練習は隅田川浜町河岸の太田水練所で行われ、横浜の競泳大会で外人に大勝した記録も残っています。

明治33年には館山湾に面する北条浜字八幡に水泳練習所を設け、最初は油屋旅館に、後には湊川尻の松林中に建てた寄宿舍に部員を収容して夏期に3週間の共同生活を行いました。この油屋旅館が、現在の水泳部OB会「油屋会」^{あぶらやかい}の名前の由来です。

昭和の初め、館山に海軍航空部隊の基地が出来て種々の不都合が生じました。そのため、昭和10年に三浦半島の南下浦字宮田に寄宿舍を建て、昭和29年まで約20年間同所で水練を行っていました。その後館山市から土地提供の話があって、昭和30年に那古海岸に宿舍を建てたのです。この宿舍は昨年改築され、50年余りの歴史を終えました。

水泳部が発足してから今年で111年を迎えますが、途中幾多の困難があったにも関わらず1年として部の活動を停止することはありませんでした。これらの長い歴史は先輩たちの努力によるもので、今も多くのOBの協力によって水泳部は成り立っています。

水泳部の活動について

開成にはプールがありません。そのため、普段は公共のプールを借りて部活を行っています。1回の練習は2時間でそれを基本的に週3回行い、競泳と日本泳法を同じウェイトで練習しています。夏期には10泊11日という開成でも屈指の長さの合宿を那古宿舍で行い、海で日本泳法を習練します。

プールについて

いくつか利用している場所があるので、使用頻度の高い順に紹介します。

東京辰巳国際水泳場

(交通: JR京葉線・りんかい線・東京メトロ有楽町線 新木場駅から徒歩10分)

世界大会も行われる、設備の整った大きなプール。メインプール(水深2m)、サブプール(水深1.4m)を主に使い、共に利用するプールの中では唯一の50mプールです。他に高飛び込み台のあるダイビングプールもあり、たまに飛び込みの練習に使います。環境は非常に良いが、学校から遠い・駅から歩くのが難点。

東京体育館

(交通: JR中央・総武線 千駄ヶ谷駅から徒歩1分、都営大江戸線 国立競技場前駅から徒歩1分)

25mプールで且つ暖かいので泳ぎやすい。学校から近いので便利。

鹿浜校趾公園プール

(交通: JR京浜東北線王子駅よりバス 鹿浜三丁目にて下車し徒歩3分)

夏休み中はここを中心に使います。屋外プールを貸しきって練習をします。25mプールだが、幅を広く使える利点があります。

ブンブ 東京スポーツ文化館

(交通: JR京葉線・りんかい線・東京メトロ有楽町線 新木場駅から徒歩10分)

夢の島にある。安いのだが、水温が大分高く、また浅いため、ここ数年は使われていない。

これらが借りられなかった場合は学校で陸トレを行います。

About swimming

日本泳法について

日本泳法とは日本に古来から伝わる游泳術のことです。ほとんどの流派は江戸時代に編み出され、我々の泳いでいる水府流太田派のみが明治に誕生しています。それぞれの流派は地方の実用上の必要性や軍用の武術の奨励などに従ったために独自性を持っています。

すいふりゅうおおたは 水府流太田派とは

流祖は太田捨蔵^{しゅうぞう}(1831～1892)。元水戸藩士で、水府流上町泳ぎを習得後、江戸講武所に入り水府流を研究。講武所の三傑と呼ばれていた。

明治11年、太田は講武所の同志と隅田川浜町河岸に「水府流太田道場」を開き一派を建てた。これが水府流太田派の起源となる。

水府流太田派は各流派の泳法を研究しその長所を取り入れた。そのため水府流に独創性を加えた、あらゆる水勢に適応できる実用的游泳術として「大日本游泳術」と総称した。

また、水府流太田派は東京高等師範学校で指導されたために学校を通じて全国に広く広まり、現在日本泳法の中で最も游泳人口の多い流派になっている。

この流派は各流派の長所を取り入れ、短所を補って整理したものなので、その結果勢いの良い泳法の種類が多くなっている。

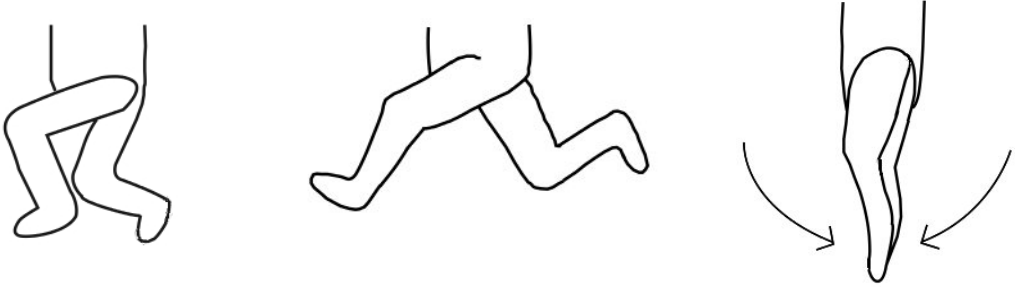
日本泳法の形について

日本泳法には大きく分けて4つの形があります。身体を横にして泳ぐ「横体」、身体をうつ伏せにして泳ぐ「平体」、いわゆる立ち泳ぎの「立体」、そして「飛込み」の4種類です。

横体の際に身体の下側になる手を「先手^{さきて}」、上側になる手を「受手^{うけて}」と呼びます(左右どちら側を下にするかは個人の自由ですが、一般的には掻く力を強くするように利き手を先手にした方がいいらしいです)。平体ではどちらが下といったことはありませんが、便宜上横体のときと同じ名前を用います。

あおりについて

日本泳法では推進力を得るために「あおり」という特殊な動作をします。これはまず身体に足を引き付けてから前後に開き、それを力強く閉じるという動きで、一般によく知られる競泳競技のキックとは大きく異なります(図参照)。この際上側になって前へ開く足を先足、下側になって後ろへ開く足を受足と呼びます。また、あおりを閉じずに何度も繰り返す動作を「あおりこし」と言います。

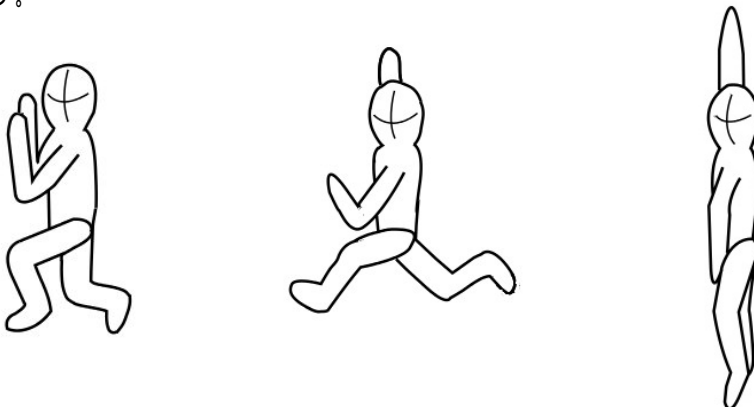


では、次から実際の泳ぎを紹介します。(文章力・画力の都合上、細部を表現しきれてはいません。また、油屋会で泳がれている泳ぎと一般的な泳ぎでは多少の差異があります。)

おうたい 横体

ひとえのしりやくたい 一重伸略体

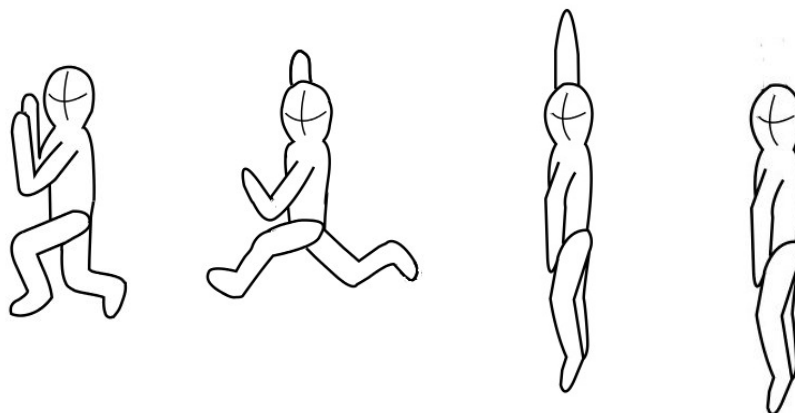
先手を進行方向に真っ直ぐ伸ばし、受手を太ももにつけて首を90度曲げてつま先辺りを見る伸びの姿勢から、「先手と受手を胸元に寄せて重ねる」と同時に「足を身体に引き付け」、「受手で水を掻きつつ両手を元の位置に戻す」と同時に「あおり」、伸びをとる。この「伸びの姿勢」と「あおり・手の動作」を交互に繰り返す、水府流太田派で最も基本的な泳ぎです。我が水泳部でもまず最初にこの泳ぎを教わります。



ひとえのしほんたい

一重伸本体

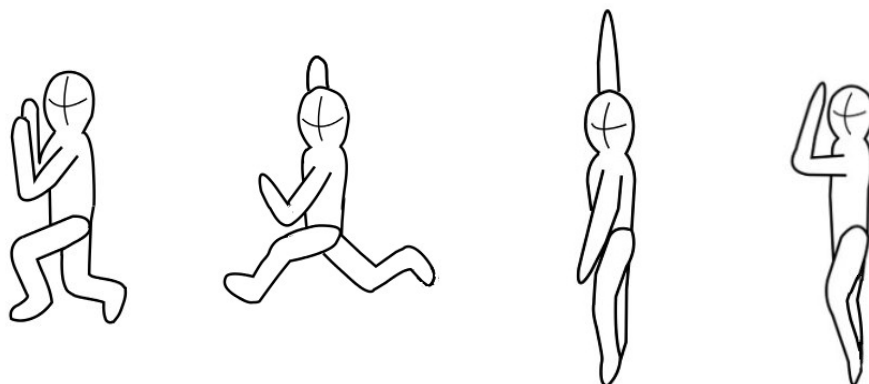
一重伸略体と基本的に同じですが、あおった後に先手を身体の真下に掻いてから、その姿勢で伸びをとります。バランスをとりづらくなりますが、この掻く動作によってより強い推進力が得られます。



かたぬきでひとえのしほんたい

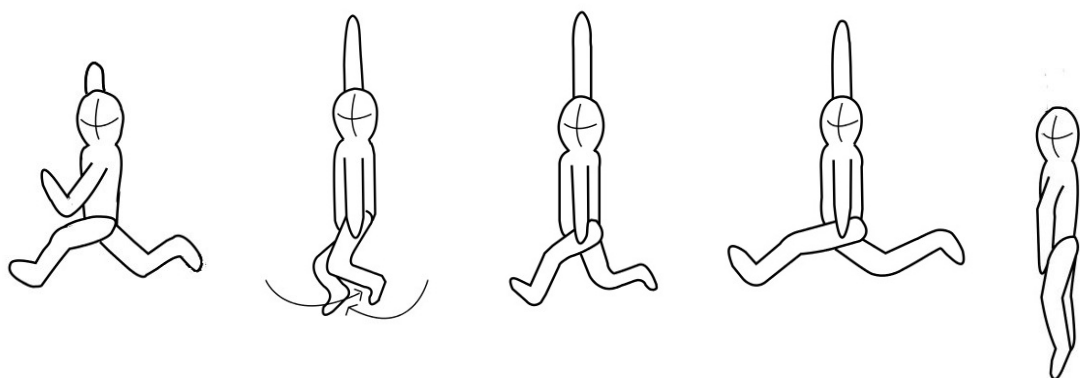
片拔手一重伸本体

一重伸本体の応用ですが受手とテンポに違いがあります。説明すると、あおったときにももに戻す受手をより強く掻き、その結果水上まで手がでます(一重伸本体ではももで止める)。その後先手を身体の下に掻くときに受手を顔の辺りから水中に戻します。それからあおると同時に両手を胸の前を通して.....をテンポよく、間断なく繰り返します。一重伸本体では伸びをとりますが、この泳ぎでは伸びはなく、一連の動作を連続的に行います。



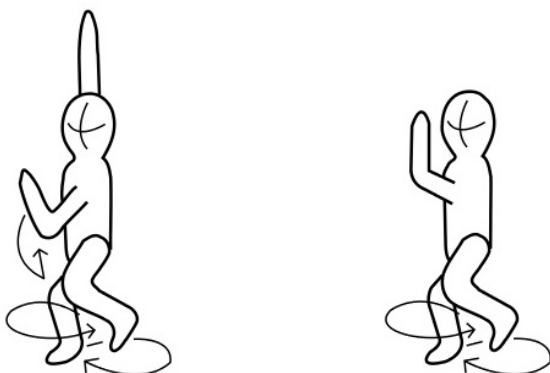
ふたえのしほんたい
二重伸本体

一重伸本体とほぼ同じですが、これはあおりこしをして2回あおります。1回目のあおりは勢いをつけるために足を閉じず、2回目は反動を利用して大きく開くようにします。受手は1回目のあおりで、先手は2回目のあおりとあわせて掻きます。



つぎてのし
継手伸

急流を泳ぐ泳ぎだったので、非常に激しい泳ぎです。あおりこしを連続して行い、その際手は「受手を掻いたらすぐに肘を曲げ(この時先手は前に伸ばす)」、「先手を掻くと同時に受け手を顔の辺りまで伸ばす」動作をそれぞれあおりにあわせて繰り返し続けます。



へいたい
平体

平体であおりをするときは、腰を90度ひねって下半身を横にしてからあおり、それから腰を戻します。また、肩をしっかりときめることで水を逃がさないようにします。

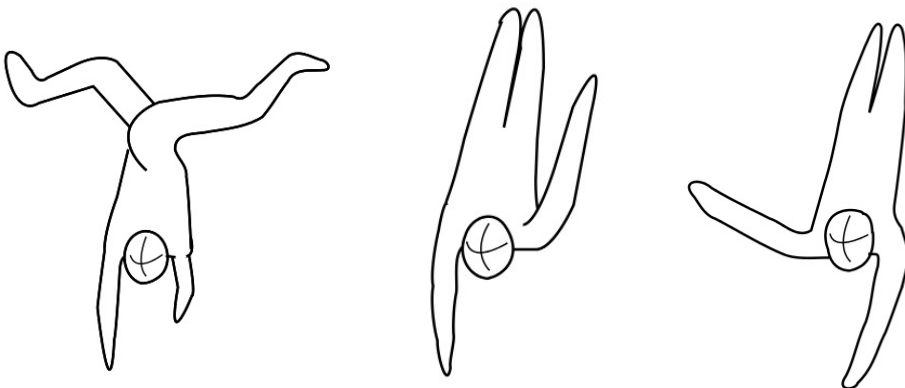
りょうわのし
両輪伸

平泳ぎと動作のタイミングは似ていますが、手を円を描くように胸元に寄せたあと、あおると同時に前に伸ばします。手は浮きをとるだけで水は掻きません。平体の基本の泳ぎですが、上手く泳ぐのは難しい泳ぎです。



はやぬきて
早拔手

両方を進行方向に向けて固定しつつ手を伸ばし浮いた状態から、腰を曲げる。そしてあおると同時に受手を後ろまで掻き、前に戻しつつ腰を自然な状態に戻す。受手を戻しきる直前には先手を動かし始めて身体の横に抜く(この先手は浮きをとるためなのであまり大きく動かしません)。そしてまた腰を曲げて……という一連の動作をテンポよく行います。クロール以前に競泳に用いられた泳ぎです。

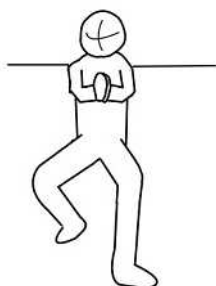


りったい

す。

ふみあし

張！

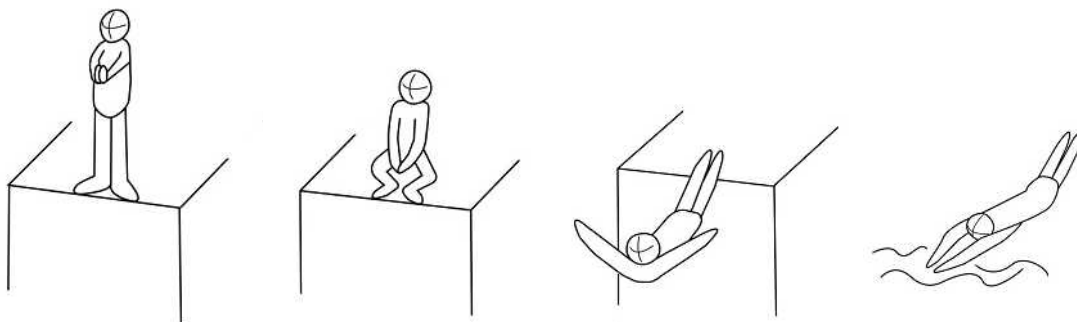


飛び込み

の高

さかとび

を戻



Others

合宿について

毎年水泳部では7月下旬から8月上旬頃に11日間の合宿を行います。場所は開成の那古宿舎です(中1の水泳学校もここで行う)。以下に合宿に関係する単語をまとめました。

油屋会.....開成水泳部のOB会。合宿・水泳学校ともに指導して下さる。

助手.....「すけて」と読む。水泳部OBのこと。

褌(ふんどし).....合宿中の公式衣装。

船.....水泳部では木造の和舟をメインに使っている。現在は「水心」「辻丸」「芙蓉」の3艘。他に監視用にプラスチック製&エンジン搭載の通称「FRP」やマリンジェットを使っている。

脚立.....合宿中のみ海に立てられる。目印、監視台、そして飛び込み台になる。

大遠泳.....合宿後半に行われるイベント。宿舎前の海岸から沖ノ島までを往復する。今年は往復に5時間15分かかった。

級.....合宿中に認定される。一級から七級まであり、二級以上の泳力を持つことが助手になる条件となっている。一級・二級は試験によって、それ以下は練習の成果によって進級する。なお、級によって帽子の種類が違う。

進級試験.....一級・二級に上がるために受ける。二級試験は紹介した9種の日本泳法+外泳(クロール)、一級試験はほぼ全ての泳ぎが対象科目になっている。

宿舎.....新宿舎になってからは驚異的というかあり得ないくらい快適になった。旧宿舎は中三以上しか知らないが、あの風情といたら、何というか凄まじかった。

部歌.....水泳部には部歌があります。合宿中しか歌いませんが。

食事.....合宿・水泳学校の食事は、普段は高校の食堂で働かれている小島さんらが作って下さる。

ホームページについて

我が水泳部には部員が管理・運営しているPC用ホームページがあります。今年は日本泳法に関するコンテンツを含め定期的に更新する予定ですので、よろしければご覧になってください。

URL:<http://kaiseiswimming.ninja-x.jp/>

**創立137周年記念開成学園文化祭
水泳部参团「その禪似合ってますね」 公式パンフレット**

平成20年9月20日発行

編集・発行：開成学園水泳部第111代執行部

© 開成学園水泳部 複製・無断転載を禁ず